喰う、寝る、遊ぶで育つ事
～熱い胸、冷たい頭、結び合う手

長崎市　菜の花こども園

園長　　石木　尚子先生

最近、子育てに関する情報をたくさんの人が発信をするようになり、様々な子育てのやり方や考え方の情報が本やネットの中で紹介されるようになりました。

長年そのような情報に触れ続けていると、教育・保育・子育てには、「流行」の様な物があり、生きている時代背景で正しいとされる価値観にもずれが出てくると感じています。次々と更新される育児グッズや多様な子育てメソッド、新旧問わずに、様々な立場から発信される情報。

そんな情報過多の現代の中にありながら、「昭和の子育て」と保護者から表現されつつも 35 年間変わらない保育を行ってきた1つのこども園の日常を今回もご紹介したいと思います。

長崎市の南の端っこにある「菜の花こども園」は、裸足で野山を走り回り、草花や野草の実を見つけ、山羊や鶏、鴨、犬、などたくさんの動物たちともふれあいながら「たくましく心豊かでよく考える子ども」へと育っていくそんなこども園です。

菜の花こども園の実践は「斎藤公子先生に学んだ保育」として、リズム遊びや運動で育つ子どもの身体の育ち、「たくましく」育つ保育の側面については、今まで何度かこのネコの会でご紹介させて頂いたことがありますので、何度か聞いた事がある方もいるかもしれませんね。

基本的には、子ども達は 4 歳児クラスまで「喰う、寝る、遊ぶ」で一日中暮らしています。毎日の中では、役に立つことばかりではなく、役にたたない事もたくさんします。身体に良い、名のある遊びもしますが、こどもが自由に遊ぶ名のない遊びもたくさん存在します。

役に立たない経験が無条件に出来る時期は一生の中で限られている、それを思い切り経験出来る事。それは目に見えないけれど、心の中に降り積もって、たくさんの芽を育てる豊かな土壌になると感じています。

また、こどもたちの日々はとても自由ですが、生活の中でのいくつかのルールは年齢発達相応にあります。人間は群れの中で生きて行く。群れの中で、自分の普通を保って生きて行く力を育てるためには壁を感じて、自分の幅を感じる事も必要になってくる。主に4～6歳期に見られるこどもの葛藤ですが、その葛藤がよく考える頭を育てていくと感じています。

そして時代が移り、子ども達を取り巻く現状が変わる中「変えない保育」の中で、健康な子ども達を育てていくには、育てる大人たちの柔軟に自分達を変えながら変わらない物を見つめて行く試行錯誤がとても必要です。私の園の職員目標「熱い胸、冷たい頭、結び合う手」を基に、日々、悩みながらも子ども達に向かい合い続けている保育士たちの実践も見て頂ければと思います。

幼少期の育ちが花開く時、それは思春期。菜の花の保育には即効性は少ないかもしれません。しかし、育った子ども達を見ていると確実に根付いている物を感じています。

乳幼児期に本当に大切な事についてのヒントを見つけて頂けると幸いです。

HP　https://www.nanohana477.com/

略歴

お母様によって 1985 年 12 月 1 日、菜の花こども園は開園され、明日を拓く「たくましく、こころ豊かで、よく考える子ども」を保育目標に掲げる。長崎の緑いっぱいの環境の下で、伸々と身体を動かし、豊かな感性が育つ保育の実践すべく園長として活躍中